

# 退院支援においてMSWが抱えるジレンマ ～MSWへの聞き取り調査から～

社会福祉法人 農協共済  
別府リハビリテーションセンター  
古屋 恵美

# はじめに

- ▶ 診療報酬や病床占床率は退院支援における一つの判断材料であり、退院調整において大きな影響を与える
- ▶ 医療ソーシャルワーカー（以下MSW）の倫理綱領には、クライアントの利益を最優先に考えることや、自らが属する組織・職場の基本的な使命や理念を認識し、最良の業務を遂行することが示されており、これらの価値が衝突し合うことによりジレンマを感じる
- ▶ 今回、当院のMSWが診療報酬や占床率との兼ね合いから感じているジレンマと、それへの対処方法について整理した

# 研究方法

- ▶ 当院のMSW 5名を対象に個別に聞き取り調査を実施

## 【質問内容】

- ・ 実績指数による影響やジレンマを感じることはあるか
  - ・ 重症度割合による影響やジレンマを感じることはあるか
  - ・ 占床率を意識したことによる影響やジレンマを感じることはあるか
  - ・ 退院支援においてMSWとして大事にしていることは何か
- 
- ▶ 調査結果から共通するキーワードをカテゴリーに分類
  - ▶ ジレンマの要因となる項目と、MSWが支援において重視している項目を整理し、ジレンマへの対処方法を分析

# 結果

## 退院支援においてMSWが感じているジレンマ

- ▶ (1) ニーズの不一致によるジレンマ
- ▶ (2) 方向性の検討に時間を要するジレンマ
- ▶ (3) チーム内で課題を共有できないジレンマ

## (1) ニーズの不一致によるジレンマ

▶ チームの目標と患者・家族の思いに差異がある

### チームの目標

▶ 実績指数の兼ね合いで入院期間を延ばすことが難しい

▶ 改善が期待できない重症

### 患者・家族の思い

▶ 患者・家族が希望する退院日に調整できない

## (2) 方向性の検討に時間を要するジレンマ

- ▶ 入院期間が長くなり、回復が得られなかった

**入院期間の  
延長が困難**

- ▶ 回復の見込みが不明瞭なため、再入院が必要（予後予測が定まらないうえに、

- ▶ 方向性の検討に時間を要し、ケアの遅延が生じ、患者・家族の苦痛が増大した

**患者・家族  
の利益**

- ▶ 施設入所の場合、希望する施設が空いていない

### (3) チーム内で課題を共有できないジレンマ

- ▶ 退院日や退院費を患者よりも病院の都合を優先していると感じる

**組織の一員としての役割**

- ▶ 実績指標や稼働率を踏まえた退院日をソーシャルワーカーがコントロールしているように思われている

- ▶ 職種によって視点や判断基準が異なる

**チームの患者観**

# ソーシャルワーカーが大事にしていること

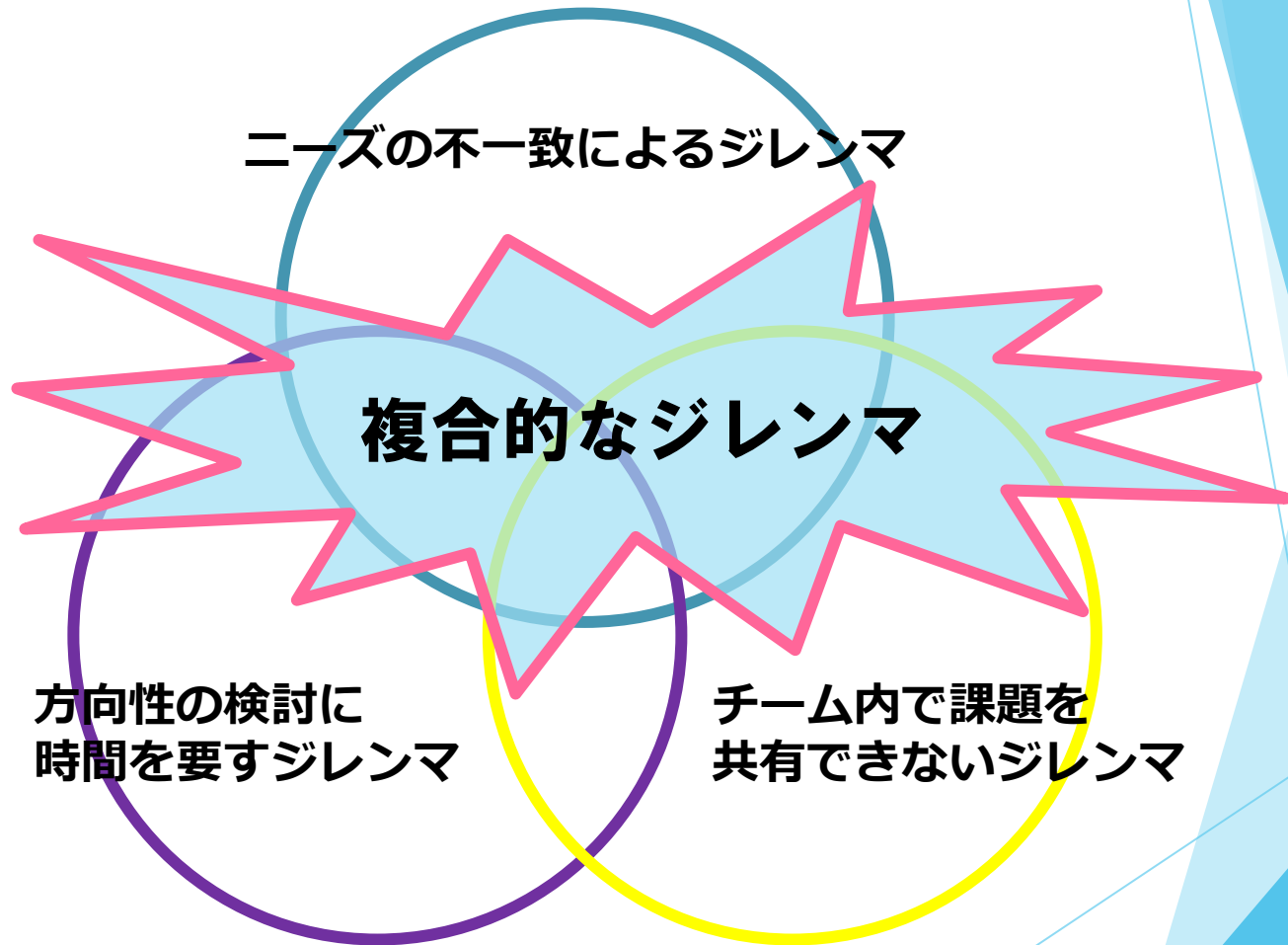
- ▶ 患者・家族の言葉や思いをくみ取り、希望を聞き続けたい
- ▶ 患者・家族のニーズと合致できるようにチームで考えていきたい
- ▶ 患者・家族の不安が少しでも軽減し、生活が送れるようにしたい
- ▶ いろんな感覚をバランスよくもち、客観的に支援し、いろんな選択肢を提示していきたい



患者・家族が **納得** できる支援



# 分析



# 患者、家族が納得できる支援のために

- ▶ 患者、家族の不安や心配事を組み取り、チームで共有する
- ▶ 実績指数や占床率を踏まえ、チームでどのような対応が必要か協議し、患者、家族が安心して退院できるような家族指導や情報提供を実施する



チームで支援

MSWは **患者、家族、チームとの共通理解** を重視し、支援を展開することによって、複合的なジレンマを整理し、対処している

# 考察

- ▶ 退院支援において、患者の最善の利益を担保する中で、診療報酬や占床率への影響との兼ね合いをチームで共有することが難しく、ジレンマが生じる。
- ▶ 川村は倫理的ジレンマへの対応について「チーム全体による情報共有,スーパービジョンによる共感を経て,問題解決に向けたステップを踏んでいくことが大切である」と述べている
- ▶ MSWは患者、家族の思いとチームの方針に差異がないか確認し、患者の課題がどこにあるのかを捉え、**チームと共有**しながら支援方法を協議していくことが求められていると考える

# おわりに

MSWは患者、家族が納得できる支援を大切にし、患者、家族、チームとの共通理解を重視しながら支援を展開していることがわかった。

患者の最善の利益を追求しつつも、組織の一員として、病院が健全に運営できるよう、診療報酬や占床率を踏まえた総合的な判断ができるよう取り組んでいきたい。

# 引用文献・参考文献

- ▶ 川村隆彦.「現場での倫理的ジレンマの課題と対応」.『ソーシャルワーク研究』2016,42-3 167,p44～49
- ▶ 岡本民夫 他.『ソーシャルワークの理論と実践－その循環的發展を目指して－』.中央法規.2016

# ご清聴ありがとうございました

